

自動車販売増につれて生産増加

輸入は電気銅が一ケタの増加

橋本金属
アルミ 橋本健一郎氏リポート ①

輸入は電気銅が前年比二二・五%増の三、七六五t、スクラップ一三・一%減の七、〇七八t。

■概況

十一月前半は米週間新規失業保険申請件数が三四万件に減少、予想の三三・八万件をやや下回ったことによる金融緩和継続期待、十月のユーロ圏総合景気改定値の上方修正、九月の独製造業受注指数の予測を上回る上方修正など好材料があったが、注目の十月のアメリカ雇用統計で非農業部門雇用者数が二〇・四万人増加と予測の二〇万人を上回ったことを好感する反面、金融緩和縮小の可能性も高まった事、また今月九、十二日開催の第十八期中央委員会第三総会で習近平指導部が初めて独自政策方針を出したものの期待外れだった失望感から、LME銅相場は大幅下落、六、九三九ドル(セツル)と前月最終価格より三三七ドル下げでの前半締めとなった。

後半は十一月のHSBC中国製造業PMI速報値が五〇・四に低下、十一月のユーロ圏総合PMI速報値は五一・五に低下、予想の五二を下回り、九月末のスペイン財政赤字がGDP比四・八%、今年目標の六・五%を下回るなどマイナス材料があったが、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(十月二十九、三十日開催分)を受け、量的金融緩和策が想定よりも早期に縮小されるとの警戒感を尻目に、週間の新規失業保険申請件数が前週比で大幅に減少し、米雇用情勢が順調に回復しているとの期待が強まり、NYダウは買いが優勢となり過去最高の一万六、〇〇〇ドルを超えた事を好感、LME銅相場は十一月三十日現在、前半締めから八八ドル上昇の七、〇二七ドル、銅建値は七六万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一〇・一%増の八七万一千、四三四台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一三・三%増の二七万六、三九九台。

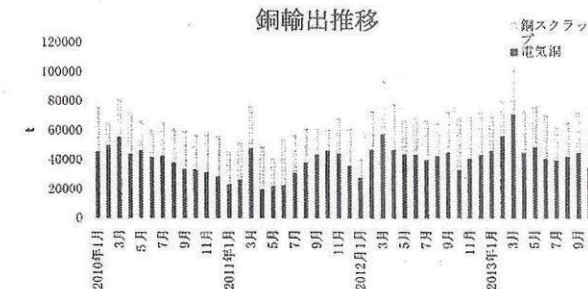
◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・一%増の九万〇、二二六戸であった。

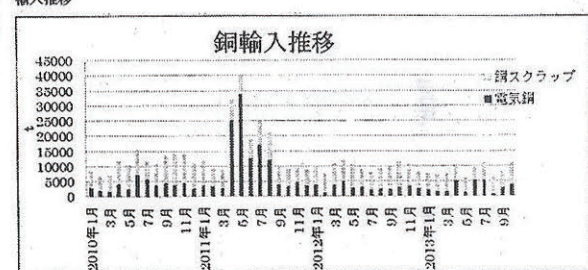
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が五・二%減の三万五、〇三八t、スクラップが二四・三%減の二万七、一五〇t。

	8月	9月	10月
輸出			
電気銅	4万2008t	4万4851t	3万5038t
前年比	-1.7%	-0.5%	-5.2%
スクラップ	2万3868t	2万7305t	2万7150t
前年比	+6.9%	-1.9%	-24.3%
輸出推移			



	8月	9月	10月
輸入			
電気銅	901t	2679t	3765t
前年比	-63.3%	+13.7%	+21.5%
スクラップ	5240t	5281t	7078t
前年比	-22.6%	-29.7%	-13.1%
輸入推移			



出典 財務省 貿易統計

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比五・六%増の六万九、五四〇t。日本電線工業協会発表の出荷速報(推定)は、前年比一〇・六%増の六万六、四〇〇tであった。(六面へ続く)

国内の銅供給不足拡大の懸念が続く

(四画より続く)

海外銅
相場

日米指標と金融政策が左右か

続増加、前年比七・一％増(季節調整済み前月比〇・七％減)の九万〇、二二六戸。今月も好調であるがややピークを過ぎた感じもあり。持家一七・六％増、貸家三・三％増、分譲住宅二・七％減と六カ月ぶりの減少。

伸銅品生産量は前年比五・六％増の六万九、五四tと、四カ月連続前年を上回る。輸出は円安を追い風に七カ月連続前年プラスの一九・七％増。銅電線出荷量は、前年比一〇・六％増の六万六、四〇〇t。うち国内一〇・三％増、輸出が二四・五％増。通信三・一％減、電力一〇・六％増、電気機械一一％増、自動車二・二％増、建設電版一〇・八％増。輸出に関しては、電気銅輸出が前年比五・二％減の三万五、〇三八t。

銅スクラップは二四・三％減の二万七、一五〇t。円安で輸出環境であったが、好調な国内生産を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少した。

輸入は電気銅が二・五％増の三、七六五t。スクラップは一三・一％減の七、〇七八t。内需の好調から電気銅の輸入が増加したとの見解【銅供給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比七・一％増と一四カ月連続増加、持家一七・六％増、貸家三・三％増と大幅増。ただし分譲住宅二・七％減と六カ月ぶり減少。

やや天井の感もあり今後の動向に注意。待望の自動車は生産が二カ月連続上昇の一〇・一％増。さらに十一月の国内販売台数が前年比一三・三％増と大幅増。前月に続き予測の通り販売増につられて生産が増加。

住宅の動向は要経過観測だが、消費増税前のかげ込み需要から住宅、自動車需要の二本柱が上昇し今後供給不足が拡大する可能性が高い。

【銅価格に関して】

今月は日米の経済指標及び金融政策に左右される。新規材料難の中、今年も残りわずかととなり日米株価が堅調に上昇していることから、それらに水を差すような、アメリカの金融緩和と縮小開始が年末に行われる可能性が少なくなった。(行われるとすれば債務上限期限の二月七日以降?) 両国の経済指標に関してだが、株高、円安、消費増税前駆け込みなどの好材料から底上げもあり、相対的には堅調な結果が出てくるとの予測。それらを踏まえた銅価格は十一月後半高値付近の七、三〇〇ドルを予測。

下値はFRBによる金融緩和と縮小開始が起った場合、十月後半安値の六、九〇〇ドルを予測。

為替はアメリカ株の最高値更新に伴う底上げ効果からのドル高円安予測。来月もう一段円安の一〇・一〜一〇・三円との予測。

銅建値に関しては七三〇〜七九〇円程度と予測している。

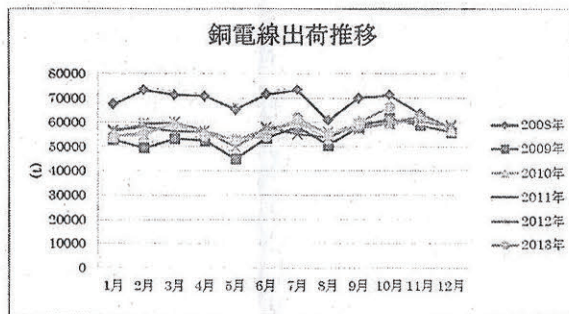
■見通し

十一月は中国第一八期中央委員会第三総会で示される習近平指導部の初めて独自政策方針の内容と、日米株価の急騰に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比一〇・一％増の八七万二、四三四t。二カ月連続プラス。乗用車九・六％増、トラック一四・九％増、バス二・八％減。販売の方は三カ月連続前年超えの前年比一三・三％増。乗用車一三・四％増、貨物一二・四％増、バス四・九％増。

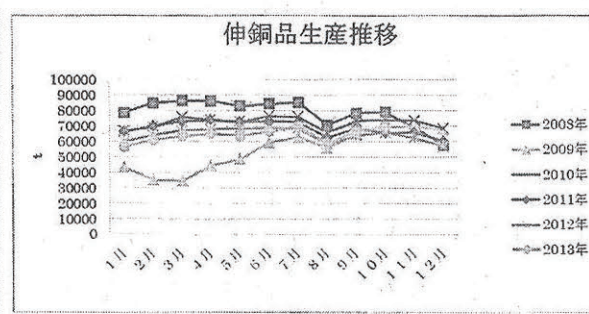
新設住宅着工戸数は先月に続き一四カ月連

銅電線出荷推移



出典 日本電線工業会

伸銅品生産推移



出典 日本伸銅協会